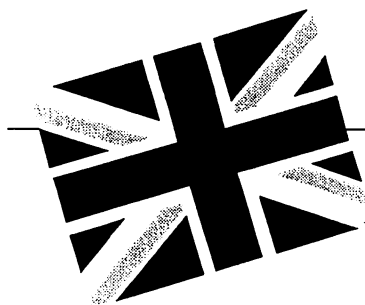


イギリスだより——①



カウンスル・タックスと 年金生活者の納税拒否

遠藤公嗣 (明治大学教授)

遠藤公嗣と申します。私が勤務する明治大学によって、昨年10月よりロンドンで在外研究に従事する機会を与えられています。その間に見聞した本誌にふさわしいと思うトピックスについて、ご紹介したいと思います。

今回のトピックスは、カウンスル・タックスという地方住民税についてと、この額が毎年大幅に上昇していて、上昇に反対する年金生活者が納税を拒否していることについて、です。

カウンスル・タックス

現在のイギリスには、カウンスル・タックス (council tax) と呼ばれる住民税があります。地方税です。戸建て住宅とかフラット (日本でいうアパートとかマンションの一区画住居のことです) などの住居に課税されます。

毎年3月に課税額の通知書が郵送されてきます。例として、本年3月に、バーネット・カウンスル (私が住む地方自治体) から私に郵送されてきた通知書の1ページ目を見てください。なお、私の名前 (DR K ENDO) の下に記入されていた住所は隠しました。また、私の名前の前には敬称 (Dr) が

ついています。イギリスでは、階級社会の名残でしょうか、人名の前に付ける敬称 (Mr などだけでなく Sir など) にうるさい習慣が相当に残っていることを示しています。アメリカ合衆国ではこれほどではありません。

私が支払わなければならない税額は、2004年4月から2005年3月まで1年間で、910.32ポンドです (通知書の中ほどの右の額)。この額を1ポンド200円で換算すると、約18万2000円となります。

年間で910.32ポンドという額は、つぎのように計算されます。その住居の

評価額を基本として、住居が属すべき税額バンドが決定されます。私のフラットはバンドDでした。Dは住宅の標準的税額バンドです。そして、Dの本年度の税額は、カップル世帯で1213.76ポンドと決定されました。カウンスル・タックスは、カップル世帯での税額表示が基本です。

この額からさまざまな理由で減額があります。私は単身で住んでいるので、それを理由に25パーセントすなわち303.44ポンドを減額されました。この減額は自動的でなく、申請によります。私は昨年9月末に入居の賃貸契約を結んだので、たしか10月に昨年度後期半年分の税額の通知書と説明書が郵送されてきました。税額はカップル世帯の額でした。説明書によって25パーセント減額されることがわかりました。申請は簡単で、指定されたメールアドレスにその旨を送信するだけでした。書式はありません。しかし、受け取りの返事はありませんでした。ところでイギリスでは、何事につけても日本では信じられないほど時間がかかり、しかもしばしば間違いがあります。他のことですでにいくつも経験しています。このイギリス事情を知

COUNCIL TAX DEMAND NOTICE 2004/2005			BARNET LONDON BOROUGH	
2004/2005 COUNCIL TAX FOR BAND D		£1213.76	up	7.0%
COMPRISING		£972.43	up	5.0%
LONDON BOROUGH OF BARNET		£241.33	up	7.5%
GREATER LONDON AUTHORITY				
DATE OF ISSUE 15 MAR 2004				
TELEPHONE NO FOR ENQUIRIES (020) 8359 2608				
ACCOUNT REFERENCE AREA 45487400 008				
PROPERTY BAND D				
PROPERTY ADDRESS (IF DIFFERENT)				
70131814				
DR K ENDO				
THIS DEMAND NOTICE IS ISSUED BY BARNET COUNCIL, FENELLA A. SABBINGTON ROAD, HENDON, LONDON, NW4 4BS. C. MEDLAM, BOROUGH TREASURER				
YOUR COUNCIL TAX DETAILS				£ P
AMOUNT DUE 01APR04 TO 31MAR05				1213.76
LESS DISCOUNT AT 25.00% CODE 01 01APR04 TO 31MAR05				303.44
TOTAL AMOUNT PAYABLE				910.32
Please see Council Tax and Business Rate at Barnet booklet for explanation of discount code if applicable				BALANCE DUE 910.32
PAYMENT DETAILS AND DUE DATES - CASH/PAYMENT BOOKLET				
£91.32	05APR04	£81.00	05OCT04	
£91.00	05MAY04	£81.00	05NOV04	
£91.00	05JUN04	£81.00	05DEC04	
£91.00	05JUL04	£81.00	05JAN05	
£91.00	05AUG04			
£91.00	05SEP04			
DETAILS OF HOW AND WHERE TO PAY ARE GIVEN OVERLEAF				

私に郵送されてきたカウンスル・タックス通知書

っていたのでゆっくり待っていました。が、少し心配になってきた12月末に、減額された額の通知書が郵送されてきました。それですぐに支払いしました。本年3月の通知書は、はじめから減額が表示されていました。説明書によると、単身の減額以外にも、たとえば病人の減額などがあり、また低所得者についての減税などがあります。

徴収されたカウンスル・タックスは、バーネット・カウンスルと大ロンドン（ロンドンの広域行政区分です）に配分されます。1213.76ポンドでいえば、972.43ポンドと241.33ポンドの配分です（通知書の上端の額）。バーネット・カウンスルの収支予算についても、説明書に掲示されています。このように、納税時に税金の使途を参照できる

ことは、私はたいへんによいことだと思います。日本では、給与所得者の納税は所得税も住民税も天引きなので、

納税時に税金の使途を参照できません。このことは、いわゆる納税者意識に影響すると思います。

83歳老婦人の「反逆」——納税拒否で刑務所入りも覚悟

カウンスル・タックスは大きな問題を抱えています。というのは、この数年間、毎年、税額が大幅に増額されていることです。前年度からの増加率は、たとえば私の場合は、7パーセントでした（通知書の上端の率）。イギリス全国平均では6パーセントとのことでした。この率でも相当に大きな率ですが、昨年度は全国平均13パーセントもの高い増加率でした。さらに、地域によって個人によって差が相当にあるようです。カウンスル・タックスの大幅な増額が毎年つづくことに、昨年度、ひとりの老婦人が怒りに燃えて反対闘争に立ち上がりました。

エリザベス・ウィンクフィールドさん（83歳）は、昨年来、イギリス全国のテレビや新聞で繰り返し報道されたため、現在のイギリスでもっとも有名な「税金反逆者（tax rebel）」となりました。この言葉は現在の流行語です。彼女は月額312ポンド（約6万2000円）の年金で生活していましたが、昨年度のカウンスル・タックスが前年度の18パーセント増の年額747ポンド（約14

万9000円）だったため、怒り心頭に発しました。そこで彼女は、物価上昇率を2.5パーセントと考えて、この率だけ年金額も上がると考え、この率だけ増額した649ポンドを納税しました。残額98ポンドは納税拒否です。

地方自治体側は、残額98ポンドを支払うように、100回以上の書簡や訪問で彼女に催促したそうですが、彼女はもちろん支払いません。納税の最後期限は1月か2月のはずなので、それをすぎて、とうとう地方自治体側は、彼女を裁判所に訴えました。

裁判はこの2月にはじめてひらかれました。エリザベスさんは弁護士も依頼しないで、一人で出廷しました。エリザベスさんはかなり小柄で、足が少し悪く杖をついてゆっくりと歩きます。裁判所に入るときも出るときも、そうでした。そして、裁判所の納税命令も彼女はもちろん拒否しました。「刑務所入りも覚悟している」と法廷で述べたそうです。閉廷後に、記者が彼女にインタビューしたテレビのニュース番組を私は見ましたが、彼女は「残額は

納税しない。納税するくらいなら刑務所に入る。こんなつまらない裁判で税金をムダ遣いするのはおかしい」と、

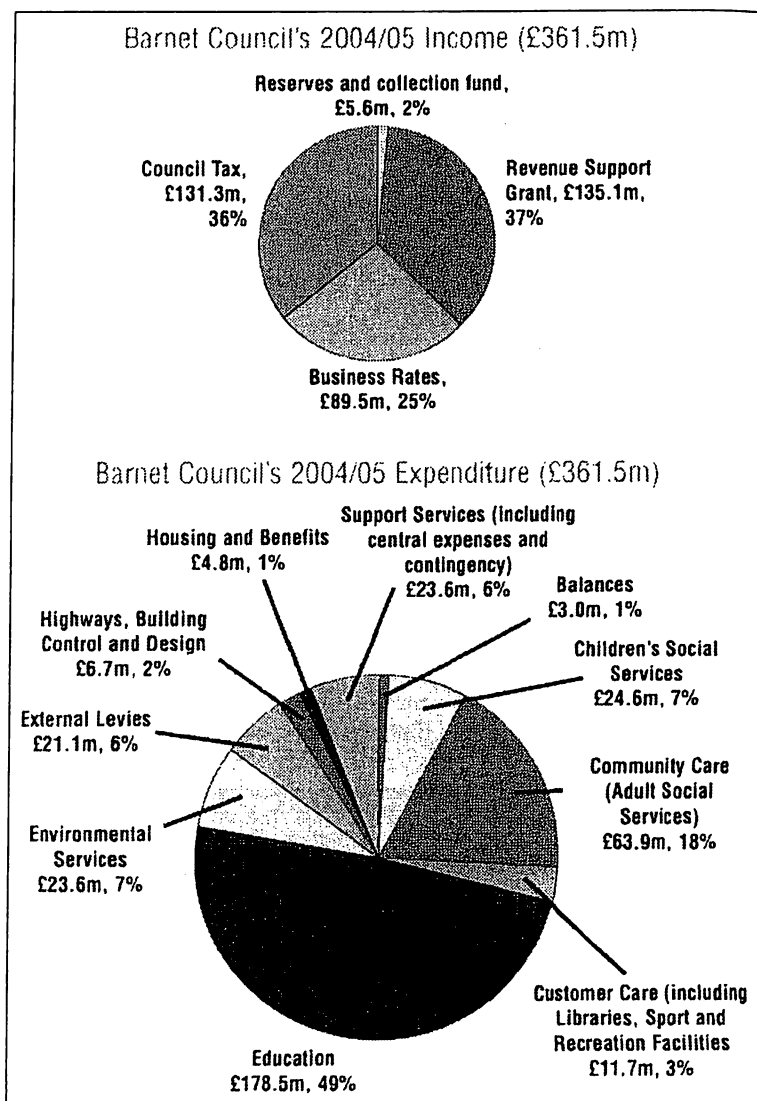
ゆっくりとした口調で堂々と訴えていました。私にはずいぶんと立派に見えました。

バーネット・カウンシルの最初の「税金反逆者」

エリザベスさんの「税金反逆」はイギリス全国に大きな影響を与えているようです。彼女に続く「税金反逆者」が各地に続いています。その多くは年金で生活する高齢者であるため、「白髪ゲリラ (grey guerrillas)」とも呼ばれています。この言葉も新語ですが、どれほど定着するかわかりません。私が住むバーネットでも、最初の「白髪ゲリラ」が裁判所に出廷しました。

ハイマン・シモンズさん (76歳) は25年間バーネットに住む年金生活者です。ハイマンさんの前年度のカウンシル・タックス増加率は24パーセントでした。あまりの増額に怒っていましたが、エリザベスさんの「税金反逆」を知り、さらにバーネットの行政トップに昇進した某氏が年額2万2000ポンド (約440万円) も給与が増えることを知り、昨年11月に、2.5パーセントの増加分までを納税し、残額104ポンドの納税を拒否することを公表しました。そして、バーネット・カウンシルから督

促を受けつづけましたが、それを拒否しつづけて、結局のところ、本年2月末に裁判所に呼ばれ、裁判所からも



バーネット・カウンシルの収支予算
出所：バーネット・カウンシルのカウンシル・
タックス説明書22ページ



Rebel: Elizabeth Winkfield

反逆者・エリザベス・ウィンクフィールドさん
出所：『デーリーメール紙』、2004年3月18日、7面

104ポンドの納税を命令されました。

ハイマンさんが裁判所から出てきた後、地域新聞の取材に答えたところでは、「自分は言うべきことを言ってきた。判事はよく聞いてくれ、私の意見に同意してくれたようだった。でも、カウンスル・タックスについて裁判所が何かを決定することはできないということで、104ポンドの納税を命令された。私は刑務所に入るのは怖くない。

でも、最愛の妻を3年前になくしたが、娘がまだいるので、殉教者にはなりたくないけど。こんなに多くの年金生活者が反対しているのだから、カウンスル・タックスは間違っているに決まっている」。ハイマンさんが「殉教者」という言葉をつかったのは、イラクやイスラエルの自爆テロの報道で「殉教者」の言葉が盛んにつかわれているため、それにならったのでしょう。裁判所を後にしてから、ハイマンさんとバーネット・カウンスルとの間で、裁判費用65ポンドについてはバーネット・カウンスルが負担するという合意ができたとのことです。

同じ地域新聞の報道によると、ハイマンさんに続いて、同じくバーネットに住むハロルド・ローズさん（81歳）も、今年は1ペンスもカウンスル・タックスを納税しない、そのためなら、よろこんで刑務所に入る、と公言しているようです。

政治がらみの行く末

こうした「税金反逆者」「白髪ゲリラ」の納税拒否がどう決着づけられるのか、今の私にはよくわかりません。カウンスル・タックスそのものに問題が多く改革が必要とも言われていますし、私もそう思います。しかし、当然

ながら、どちらもその行く末は政治がらみです。

たとえば先に述べたように、昨年度は全国平均13パーセントもの高い増加率でしたが、本年度は全国平均6パーセントの増加率になりました。6パー

セントでも相当に大きな率ですが、激減したことに違いはありません。この激減のひとつの理由が、「税金反逆」「白髪ゲリラ」の納税拒否への対応であることは間違いないでしょうが、現在のブレア労働党政権にこうした対応を促したのは、この6月に欧州議会選挙が予定されているからです。

現在のブレア労働党政権は、低所得者や労働組合などに非常な失望感をもたらしています。一言でいえば、彼らが期待したような政策を実施してくれない、ということです。「税金反逆者」「白髪ゲリラ」の納税拒否もそのひとつです。労働組合の会合で、来賓として出席する労働党政権の閣僚に、労働組合指導者が面と向かって批判し皮肉を言うのはあたりまえになってしまいました。低所得者の一部は、極右暴力主義政党の支持にさえまわっています。マンチェスター周辺の労働党の強固な支持者が多かった地域では、いくつかの地方自治体で、極右暴力主義政党であるイギリス国民党（BNP：British National Party）が複数議席をもつようになりました。極右暴力主義政党の存立基盤がイギリスにはほとんど存在しないと信じられていたので、保守党も含めて、この事態は危機感を持って受け止められています。

その保守党ですが、昨年11月に新党首になったマイケル・ハワードは、なかなかのやり手のように私には見えます。ポイントをつく政治発言や政治行動が多く、くわえて低所得家庭出身のユダヤ系（イギリス国民党批判の演説で、祖母がナチの強制収容所で死去したと述べている。この2月に、イギリス国民党の基盤都市に乗り込んで、そこで批判演説をした）のいわば「たたき上げ秀才」であって、中上流家庭出身でエリートの道を歩んだブレアとは好対照です。党首は、保守党と労働党とで逆転している感があります。ハワードのために、労働党の強固な支持者だったがブレア政権に失望した人たちの一部が、保守党支持にまわるかもしれません。

ブレア労働党はこの状況を理解していて、ハワード保守党の進出を警戒しています。6月の欧州議会選挙は、イギリスの現在の政治状況がどうなっているかを示すでしょう。その結果は、いつかは行われる次のイギリス議会総選挙の結果を暗示するかもしれません。「税金反逆者」「白髪ゲリラ」の納税拒否やカウンシル・タックスの行く末は、こうした状況の中で決まってくると思います。

（えんどう こうし）